

「共に生きる社会」の実現をめざして

# IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **83**  
December  
2010



第15回**風花祭** 大田原キャンパス  
海外保健福祉事情2010  
マロニエ苑20周年&中国視察





全日本医療学生卓球大会で好成績をおさめた卓球部のたこやき屋さん

# October 2010

KAZAHANA-SAI

## 第15回 大田原キャンパス

# 風花祭

「Infinity ~我らの思い、∞(無限)のカ~」



今年のテーマ「Infinity」をバックにあしらったステージ

10月16(土)・17(日)の2日間、大田原キャンパスにて大学祭「風花祭」が行われた。

この風花祭を通して発信したかったのは、次の3つ。

**1** つ目は、まず、今年のテーマの「Infinity ~我らの思い、∞(無限)のカ~」

自分たちが持つ無限の可能性、希望、夢、そして行動力。

これらを大いに感じてもらいたい。

**2** つ目は、医療福祉の総合大学としての本学の特色  
同時開催のオープンキャンパスと併せて本学だからできることを感じてもらいたい。

**3** つ目は、バリアフリー  
例年、関連施設や外部団体の方も多く参加いただいている。  
ぜひ心のバリアフリーを実現するきっかけにしてほしい。

はっきり形に表れた成果もあれば、いつか芽を出す種をまくような経験もあったでしょう。例年にも増して活気を感じとることができた2日間でした。



交響楽部の演奏



箏曲部・胡桃の会による三味線の演奏

## 2 特集1 第15回風花祭 大田原キャンパス



## 4 特集2 海外保健福祉事情2010

ベトナム・中国・オーストラリア・台湾・韓国  
韓国(放射線・情報科学科) / English Camp

## 8 特集3 マロニエ苑20周年 & 中国視察

- 10 小田原キャンパスレポート 第16回
- 11 福岡天神キャンパスレポート 第6回
- 12 大川キャンパスレポート 第20回

## 13 Topics & Columns

米国・カナダの医学部を視察して / 「キッズスクール」開催 / 「高校生作文コンテスト」表彰式 / 「関連職種連携」連携ワーク発表会を実施 / 【コラム】私の主張「最近の若者のやさしさについて思う」小田原保健医療学部 看護学科教授 荻野雅 / 看護学科 実習前のレディネス作り「円滑な実習に向けて Win - Win - Win !」 / 看護学科 結ネットワーク計画第4報 第1回「絆会」を大田原市で開催 / YUMIE 氏特別講演会開催「聴こえなくても私は負けない」 / 「栃木県視能訓練士勉強会」開催 / 3年生病院実習報告会・医療経営戦略セミナー開催 / 元米国五輪代表候補 大橋グレースさんの特別講演 / 【コラム】私のおすすめ本「認知症のパーソンセンタードケア」福岡看護学部 看護学科准教授 古川秀敏

## 18 施設インフォメーション

国際医療福祉大学病院 / 国際医療福祉大学塩谷病院 / 国際医療福祉大学三田病院 / 国際医療福祉大学熱海病院 / 山王病院 / 化学療法研究所附属病院 / 高木病院 / 福岡山王病院 / 新宿けやき園 / おおたわら風花苑

- 22 卒業生・留学生通信
- 23 学生投稿ページ 兄弟姉妹揃って国福大生 PART 3 双子編
- 24 医療福祉チャンネル774 / お知らせ IUHW Hot News



今年最後のオープンキャンパスも同時開催



地元の人たちも大勢訪れている



オープンキャンパスに参加した女子高生。来年は国福生として風花祭に参加しているかも

### Photo Library

#### ●看板娘たち!



#### ●もちろん男子も負けてません



こちらは、あやしい?看板娘



ナイスツーツショット発見



室内展示グループは仮装でアピール



地元の警察による防犯キャンペーンも風花祭を訪れた

ノリがいいから採用!

# 海外保健福祉事情 2010

Vietnam, China, Australia, Taiwan, Korea, English Camp

## ベトナム研修

Vietnam

ぜひ若いときに経験してほしい

保健医療学部 言語聴覚学科 助教 谷谷信一

ベトナムでの二週間は、様々な体験をすることができた。見聞するものすべてが刺激的で、文化・交通事情・医療体制などの違いを感じることも多くあった。ホーチミン市中心部の喧騒に身を置き、高層ビルが屹立する様子を見ると、ベトナム戦争が遠い過去の出来事のように感じられる。しかし、見学先の病院では、戦争の傷跡をはっきりと認識させられ、戦争の恐ろしさを強く感じ



研修先のチョウライ病院

た。また、今回の研修中に現地活躍する多くの日本人に会うことができた。今回の二〇名の学生から

海外で活躍する方が出ること切に願っている。国際室をはじめ多くの方にご支援いただいた。チョウライ病院の方々には、特に親切に対応していただいた。この場を借りて御礼申し上げる。また、研修の引率を経験し、自分自身の学生時代になぜこの事業に参加しなかったのかを強く後悔した。若いときに海外で研修を行うことはとても貴重な経験である。

## コミュニケーションの大切さを経験

福岡リハビリテーション学部 作業療法学科 福岡リハビリテーション学部 二年 野田優佳

今回の研修は私の予想をはるかに超えたものであった。一番強く感じたのはコミュニケーションの難しさである。通訳の方は研修のときには頼れない。病院のスタッフも英語を話せる人は少なかった。何を伝えているのか必死で理解しようと耳を傾け、表情や仕草に集中した。



医師の指導を受けながら血圧の測定真

## オーストラリア研修

Australia

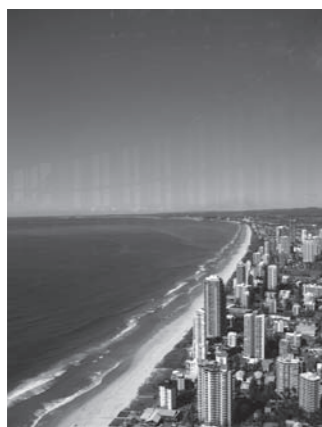
目に見る成長を遂げた学生たち

神戸百合香 助教 語学教育部

今回の目的は、「医療福祉現場に触れること」、「語学を学び国際感覚を磨くこと」である。二週間という短期間、そしてオーストラリア研修ならではのホームステイという環境の中、三二名の学生はそれぞれ努力奮闘し目的を達成したと思う。

ケアフライトセンターや公立病院などを見学した。各施設の医療福祉内容は異なるが、共通していたのは working in multi-disciplinary というチーム医療の姿勢であった。各施設でこの精神が徹底的に実践されていることに感銘を受けた。

語学に関しては、Hello の挨拶にさえ不安を覚えていた学生が、語から文という、より長い連鎖を作るまでに成長した。ホームステイはもとより、TAFE Aでの多国籍学生を交えた英語の授業という環境で、英語をツールとして使うことを学んだ産物であろう。施設の見学、言葉と文化の差を乗り越えてコミュニケーション



ゴールドコーストの絶景

意思が通じ合ったときは感動し、反対に自分の考えや意思を伝えられないときは悔しかった。言葉の壁が厚く、自分を責めた。だが、今思い返すと、こうした経験はこれから出会う患者さんとのコミュニケーションに大きな影響を与えてくれるのではないかと思う。自分の意思を伝えられない菌がゆさや意思疎通ができたときの喜びは日本では経験できなかったであろう。この経験を思い返すことができれば、今までは違う毎日を過ごすことができると思う。

## 中国研修

China

積極的な姿勢を貫いた学生たち

小田原保健医療学部 作業療法学科 准教授 山路博文

今回、中国研修合計二四名（大田原八名、小田原一三名、大川三名）の引率教員として従事し、無事に帰国することができた。

成田空港に集合した時には、同じ大学の学生同士とはいえ、みんな緊張していたのか、まだまだ他人行儀なところがあふり、この先うまくやっていけるか少し不安になったりもした。ところが、北京に到着してみると、みんな心をオープンにし、すぐに打ち解けて仲良くなったのでひと安心した。ほとんどの学生にとって初めて経験する海外だったが、研修の日もフリーの日も、臆することなく積極的に経験した経験、ゴールドコーストの絶景が、参加者の将来の糧になることを願う。

## 制度や文化の違いを知る貴重な経験

小田原保健医療学部 作業療法学科 二年 遠藤佳央里

初対面の他キャンパスの人と、日本語の通じない家庭でこれから二週間生活していく。最初は不安だらけだった。しかし実際には、現地での日々は充実し、研修期間は瞬く間に過ぎていった。

TAFE Aで他国の生徒と英語の授業を受ける一方で、公立・私立の病院をはじめ保健医療に関わる施設を見学し、そこで働く方の話を聞いた。中でも特徴的だったのはNSの制度だ。オーストラリアのNSは階級分けが細かく職務も多岐にわたる。例えば、認定範囲内の薬であれば、NSの判断だけで処方できるそう。

また、ホームステイ先はどこもフレンドリーに迎え入れてくれた。お弁当にはりんご丸ごとのデザート。ホームステイだから気づいた日本との違いや海外の文化も数多く、ここでの生活と出会いはかけがえない経験となった。

三名という大所帯を引率してくださった神戸先生はじめ、この研修の機会を与えてくださった方々に感謝している。



TAFE での集合写真



現地の実習生との交流も

極的に行動する姿勢を貫いて、そこから多くのものを得て、それぞれ胸に刻み込んだことと思う。

これも中国リハビリテーション研究センターのスタッフの皆様、本学国際部長の福原先生や国際室のスタッフの方々に支えていただいたお陰である。この場をかりて心よりお礼申し上げます。

## 日本ではできない経験に充実感を味わう

小田原保健医療学部 理学療法学科 二年 磯崎美沙

リハセンターでは、思っていたより医療設備がきちんと整っていて驚いた。リハビリでは患者様が自主練習にとっても熱心で、家族もしっかり付き添い支えていることに感動を覚えた。他にも見学だけではなく、実際に患者様のROM・TやBMR・Tをやらせていただいた。まだ患者様にテストを行った経験がなかったためきちんとできるか不安でしたが、SVの方に親切に教えていただき、安心して患者様に接することができた。



kimono で Aged Care Centre を訪問

## 台湾研修

Taiwan

国際社会に目を開く洗練された内容

保健医療学部 放射線・情報科学科 助手 座間佳男

大田原キャンパスから六名、大川キャンパスから一三名、教員一名の計二〇名が参加した。今回の受け入れ先となった元培大学は本学と協定を結んでいるが、海外研修としては初めての受け入れだった。期待と不安を抱えつつ成田空港を出発、台湾の空港で迎えを受け、2週間の研修が始まった。台湾は治安が良く、親目的であり物価も安い。研修国として最適であると感じた。また、プログラムが、異文化交流、中国語講座、施設見学、観光など、非常に洗練されており作者のアレンジ能力に驚いた。

研修を進める中で、台湾研修の最大の特徴は学生交流であると感じた。全ての

また、万里の長城、故宮などに行くこと、日本とは違った文化を身をもって体験することができた。JICAの中国事務所へ見学に行った際は、JICAの活動について説明していただき、実際に青年海外協力隊として活動中の理学療法士である渡辺隊員のお話を聞くことができた。



故宮博物院で文化に触れる



浴衣姿を披露した JAPAN Day

今回、中国で経験し、学んだことを学生生活だけでなく、現場で働く中でも活かしていきたいと思う。



Taiwan Adventist Hospital で院長から説明を受ける

プログラムにおいて、教員だけではなく元培大学の学生がサポートしてくれる。基本的にコミュニケーションは英語であるが、学生同士が電子辞書を片手にお互いの母国語を教え合ったりもした。将来、国際社会で活躍する上で非常に有用な研修だった。

**様々な文化の違いを肌で感じとった**

保健医療学部 看護学科  
二年 和田直末

初めての受け入れ先ということで、不安と緊張があったが、気温三八度という暑さの中、温かく迎え入れていただき、すぐに打ち解けることができた。

病院実習では、台湾の最先端技術のある病院や精神科、緩和病棟などを見学した。特に、緩和病棟では、亡くなった患者様が描いた絵や手紙、メッセージなどが廊下に飾られており、日本との違いを感じた。



Suang Lien Aged Care Center の入居者の皆様と一緒に

学校では、中国語の授業で自分の名前や簡単な会話を覚えて実際に使用した。さらに、台湾の音楽を演奏したり、カンフーを教わるなど、活動的な内容だった。



Japan Day での文化交流

Japan Day では、そうめんや天ぷら、みたらし団子を作ったり、浴衣や甚平のファッションショー、ソーラン節の披露など、日本の文化を伝えることができた。

この研修を通して、医療や言葉、食、

音楽などにおける文化の違いを肌で感じ、機会があればまた参加したいと思うほど充実した研修だった。

**韓国研修**

Korea

**世界に目を開ききっかけにしてほしい**

福岡リハビリテーション学部  
理学療法学科 講師 甲斐悟

本学部では、平成二二年度入学生から海外研修を全員参加のプログラムとして導入した。本年は対象学生から韓国研修の希望を募ったところ、PT二六名、OT一六名、ST六名の計四八名が参加し、八月二日から九月二日まで、韓国の二つの大学と関連施設を訪れた。

最初の三日間は、大田市にある建陽大

学で講義を聴き、学生同士の発表会や交流会を行い、関連病院や施設を見学した。その後、ソウル観光等を行って、福祉機器展示会にも参加した。続いて、釜山までバスで移動し、仁済大学で三日間の研修を行った。病院で行うリハビリテーションは



金海市の仁済大学

日本と同様で、使っている機器も同じものが多かった。今回の研修で初めてバスポートを取得した学生も多く、多くの体験が心身ともに成長させたことと思う。国際交流を通して、国際的視野を身に付けてもらえれば幸せである。それにしても、よく雨が降った研修であった。

**国により違うことと同じことを知った**

福岡リハビリテーション学部  
理学療法学科 二年 中元唯

ユソン家族病院、ヤンサン病院、白病院を見学した。ヤンサン病院では、大人も子どもも同じ理学療法士が治療を行い、二人で三〇人を治療していた。日本と同様、スポーツ治療・PNF・マッサ

ージ・歩行訓練を行っていた。今は治療の幅が広がり、家でも物理療法を行うことができ、動物やゴルフを利用した治療、将来はロボットを利用した治療が行われるかもしれない。制度の違いを実感したのは、嚥下訓練を作業療法士が行っていたことである。理学療法に重要なのは、たくさん経験し勉強すること、なぜ痛いのかわり多方向から原因を考えることであり、これは日本



大田市の建陽大学での学生交流

も韓国も変わらないと思う。勉強以外の思い出もたくさん作られた。ビビンバや冷麺、プルコギなどを食べ、中でもキムチは朝から食べた。韓国で有名なJUMPという劇も見た。韓国の学生は勉強熱心で日本語で話しかけてくる。それが刺激になり、改めて私も頑張ろうという気持ちになった。

**韓国研修**

放射線・情報科学科 2010

**目的を持って外国に触れよう**

保健医療学部 放射線・情報科学科  
講師 山本智朗

前回までの研修は卒業研究室の行事として行っていたが、四回目を迎える今回からは本学科の学生から希望者を募り、八名の学生と訪韓した。

最初の研修先は、ベッド数二四〇〇床、一日の平均外来数九〇〇〇人という、本邦には存在しない巨大病院・延世



延世大学セブランス病院での臨床実習



延世大学セブランス病院



キム・ヨナ選手も在籍する高麗大学

大学セブランス病院で、英語によるコミュニケーションを主とした臨床実習を丸一日行い、日韓の患者接遇の違いを学んだ。

翌日はキム・ヨナ選手も在籍する高麗大学メインキャンパスを見学し、同じ学科の学生達と学術発表会を行った。全て英語という難しい課題をこなし、立派な発表ができた。キャンパスの一角で高麗大学の巨大な応援旗に手形を付けるイベントが行われており、声を掛けられて本学の学生も参加し、よい思い出になった。

今後グローバル化が進む中、診療放射線技師にも国際性は要求され、旅行では



現地のおいしいものをいただくのも大切な文化交流

なく、目的を持って外国に触れることは非常に有意義である。

**達成感を味わった貴重な体験でした**

保健医療学部 放射線・情報科学科  
四年 川住弥生

今回の韓国研修は、私にたくさん良い経験をもたらしてくれた。

家族が海外に住んでいるので、海外に行くのは慣れていたはずなのだが、ハンダ文字は何が書いてあるか全く理解できず、挨拶程度でも勉強しておけば良かったなど後悔した。

高麗大学での学術発表会では特に得たものがたくさんあった。これまで人前で研究発表というのをしたことがない私が、英語のスライドを作成し、英語で発表するというのは想像以上に手こわいことであった。出発の一週間前からほぼ寝ずに原稿を作成している時は、「絶対に逃がしなう」と考えていた。しかし、山

本先生をはじめ、多くの先生方の協力を得てなんとか形にすることができ、無事に発表を終えた時は達成感と疲労感でいっぱいになった。そして、その疲労感を癒してくれたのは、韓国のおいしい焼肉だった。

「サムギョプサル、最高！」

**English Camp**

英語研修

毎年恒例になっている英語集中キャンプが九月初旬に実施された。今年は昨年よりさらに多い三九名が参加し、福島県にあるプリティッシュヒルズで九月二日から五日まで異文化を体験した。大田原キャンパスで実施される事前事後授業を



含めると六日間のプログラムで英語力のアップを図った。

今年には記録的な暑さの中、大田原キャンパスからバスに乗り込んだ参加者たちを高原のさわやかな風と、英国風の荘厳な建物が迎えた。

現地では、英語でスノーカーを楽しんだり、キャンドルメイキングの授業を体験した。昨年より開始した英語スピーチのテーマは「The Turning Point」で、参加者全員が自分の体験を基に、プログラム最終日には各自素晴らしいスピーチを披露した。

この六日間の研修で得たことが世界に羽ばたく礎になればと願う。

(総合教育センター 語学教育部)

Nanae SUGAYA, RT1

The conversation was all in English! I had to express my feelings in English so that the native teachers would understand me. And learning the speech skills was the best experience for me. I learned gestures, eye contact, and the volume of the voice are all very important to make my speech effective. In all, I had an unforgettable experience through the British Hills English Camp Program.

Saori NOMURA, PS1

The British Hills English Camp Program gave me the opportunity to find a new aspect of myself. Though I am not good at communicating with people in English, I found out that my own "live" feeling with gestures can help me in speaking. I learned to speak in English with gestures. I would like to thank the BH staff and our IUHW teachers.

介護老人保健施設 マロニエ苑が開設20周年を迎えました。



平成二年に開設された介護老人保健施設マロニエ苑(栃木県那須塩原市)は今年、開設20周年を迎えました。

自慢の天然温泉大浴場を備え、隣接する国際医療福祉大学病院の全面的なバックアップのもと、お年寄りがゆったりとくつろげる快適な環境を整えています。さらに、国際医療福祉大学の附属施設として学生実習を積極的に受け入れ、これからの老人福祉を担う人材育成にもますます力を注いでいます。

20周年を記念して、六月には「永年勤続者北京旅行」を実施しました。参加した国際医療福祉大学病院の室井副看護部長からレポートをいただくとともに、国際医療福祉大学病院の石塚先生には20年前の開設当時を振り返っていただき、今となっては貴重な、ご自身の研修時代のエピソードやマロニエ苑との出会いを大いに語っていただきました。



マロニエ苑開設20周年記念永年勤続者中国「北京」旅行に参加して

国際医療福祉大学病院 副看護部長 室井幸江



平成二年六月一日から三日の四日間、マロニエ苑開設20周年記念永年勤続者中国「北京」旅行に行つて参りました。参加者は、高木理事長をはじめとし、山崎医師、北村医師、石塚医師、マロニエ苑20年勤務者10名の総勢一六名でした。行程は、国際医療福祉大学と国際交流をしているリハビリテーションセンターの視察(中国康復研究中心)、天安門広場、万里の長城など、北京の歴史に残る名所の観光でした。

リハビリテーションセンターの視察では、国際医療福祉大学との交流や日本にはない医師の診察システムに感銘を受けました。高木理事長とご一緒させて頂いた天安門広場では、観光客の多さや、広場の広さ、建物の雄大さが印象に残り万里の長城の風景は豪壮雄大で広大な中国を垣間見ました。万里の長城の傾斜がきつく、途中で引き返し頂上までは到達できなかったのが残念でしたが、中国の壮大さはしっかりと心に刻むことができました。

中国残疾人联合会副主席である湯小泉様、リハビリテーションセンター職員の方



見ておいて。来週は君にやってもらいから」といわれた。胃透視! それは当時私にとって憧れというか夢というか、そういう存在だった。ただのバリウム検査がなんで憧れとか夢の対象になるのだといぶかる方もいるだろう。そこを理解してもらうためにドラマ『白い巨塔』で田宮二郎演ずる財前五郎の次の台詞を引用しよう。

「カルデアアクトレプス(噴門痛)だよ、部位は噴門後壁、まだ母指頭大の大きさで、早期発見だ。カルデアアクトレプスの微妙な陰影の読影は、いかなれば科学ではなく、一種の芸術なんだよ、何回も自分の眼で見ているうちに会得し解ってくるものだよ...」

私はその一週間、胃透視のマニユアル本をしゃぶりつくした。へたな写真撮って痛を見落としたら大変だ。本番当日はトラブルなく終了した。現像されたフィルムは意外にまともだったのでうれしかった。これに味をしめた私は次々に検査手技を体得すべくがんばった。今しか習得するチャンスがないということが逆にモチベーションを高めた。

胃透視の後は胃内視鏡に挑戦した。胃内視鏡は挿入が一番難しいところとで、ホームセンターでL字の配管を購入し、それを持って夜間だれもいない内視鏡室でL字管を人の喉にみたくて挿入の練習をした。本番の一例目は四〇代の女性だった。最初緊張してうまく挿入できなかつたが、深呼吸して2回目はうまく挿入できた。検査がひととおり終わるとヤッターという気持ち

皆さんとの四川料理を囲んでの交流会では、政治、経済、パリンピックのことなど、時間を忘れて語り合ったのが印象に残りました。五つ星の豪華なホテルは心地良いお部屋、行き届いた親切なサービスが提供され、中国とは思えない程のアメニティで、本当に優雅な気分でごすことができました。バスの中や夕食会では、高木理事長を囲み、マロニエ苑の開設当時、慣れない職員同士が時の経つのも忘れ夢中で業務に従事したこと、入所者を連れての遠足、敬老会、運動会の企画など数々の出来事が、走馬燈のように思い出され二〇年前を復元した会話が飛び交う楽しいひとときを皆で共有しました。

今回参加した私たちは、介護老人保健施設で得た経験や国際医療福祉大学グループで従事している誇りを再認識し、更に発展できるよう頑張つて行く所存です。最後に、高木理事長の温かいお気持ちに感謝しています。ありがとうございます。

マロニエ苑20年勤続の原点

なぜ卒後三年目にしてマロニエ苑に就職したのか?

国際医療福祉大学病院 石塚彰映



マロニエ苑勤続二〇年ということ、その二〇年間の文章にまとめられるよう依頼を受けたものの、正確な歴史をつづるとなると資料集めが大変となる。そこで、体験談を中心にしてまとめてみようとしたが、遠い過去のマロニエ苑でこういうことがあったなどとかつに書くのと、今のマロニエ苑はこうだという話になってしまふ可能性があることに気がついた。そこで、マロニエ苑二〇年間の医療活動の原点となった都立府中病院での二年間の研修生活から話を始めてみることにした。二〇年以上前の都立病院であったことをありのまま書いてももう時効だろう。

一九八八年、医学部を卒業した後、私は東京都衛生局に就職し、都立府中病院で二年間の研修を開始した。東京都から六年間で総額二一六万円の奨学金の貸与をうけており、東京都に就職しない場合は全額返還しなければならぬという事情もあったが、当時母親が重度のぜんそく発作をくりかえしており、自宅に近い府中病院に勤務すれば不安はないという思いもあった。実際、発作発現時は自宅で点滴治療を行った。そのかいあって母親の病状はしだいに寛解した。

研修医になって最初に消化器科にまわった。ここでK先生と出会った。K先生は面倒見もよくなんでも教えてくれた。数え切れないほど飲みにも行った。

最初に胃透視(バリウム検査)を見学したとき「今日は僕がやるからよく

ちになった。その晩は祝杯をあげた。

次は気管支鏡に挑戦した。胃内視鏡の操作をマスターした後だったのですぐに使いこなせるようになった。二〇例くらいやって痛を一例みつけた。また気管支鏡を使うと挿管がきわめて容易にできることを体得した。

エコー検査を習い始めたころは小学校の同級生と夜な夜な、だれもいないエコー検査室で同級生のお腹を借りて練習した。そのあとはお礼に晩飯をおごった。そうこうするうちに研修も終了に近づくことと臨床から離れることにさびしさを感じてきた。(制度上三年目以降は都の公衆衛生行政にたずさわることになる)背広姿のお役所勤め:アフターファイブは理学部の時にうち込んだガロアやゲイデルに再挑戦するかなども考えた。

ちょうどそういう時に高木理事長から建設中のマロニエ苑を見学する機会をいただいた。マロニエ苑に併設するマロニエ病院はほぼ竣工しており、そこには胃透視、胃内視鏡、腹部エコー、心エコーはもとよりCTまであった。しかも新品で都立病院の医療機器に優るとも劣らないものであった。この施設を目の当たりにして心が決まった。これが、私がマロニエ苑、マロニエ病院に就職した経緯である。マロニエ就職後、週四日当直の全科診療という境遇においても研修医時代に培ったチャレンジ精神で何とか乗り越えることができた。

第五回潮風祭開催

十月一日(土)〜二日(日)、第五回「潮風祭」が開催された。今年のテーマは「君色」。一人ひとり異なる考え・思い(色)を持ち大学に通う学生たちが、意見をぶつけ合い、協力してひとつのものを創り上げるとき、また新たな色が生まれる。一人ひとりの個性を活かしながら、昨年とは一味違った大学祭にしたいとの学生たちの思いが込められたテーマである。

昨年初めての卒業生を送り出した小田原キャンパス。今年は、潮風祭の名づけの親である一期生たちも多く来場した。

第一日は、教育後援会会員のつどいの特別講演が行われ、今年度は第一部で、学生相談室臨床心理士の山本みどり先生による講演、第二部で、パラリンピック水泳メダリスト河合純一氏による



鶏肉とはいえ緊張感は本当の手術さながら



1期生が卒業したあとも進化を続ける潮風祭

講演が行われた。どちらも来場した方々から好評をいただいた。例年、国際医療福祉大学熱海病院の協力を得て実施している看護学科体験ブース。今年の注目は手術室の疑似体験。参加者には手術着に着替えてもらい、実際に電子メスを使って、鶏肉を切ってもらおうというもの。参加者たちは初めて手にする手術器具に緊張の面持ちで病院スタッフの説明に耳を傾けていた。その他、手指衛生や血糖値測定など、熱海病院スタッフの指導のもと学生たちも参加者たちに日頃の学習の成果を発揮していた。また、熱海病院スタッフの中には、昨年卒業した一期生の顔もあり、後輩たちに優しく指導する姿も見られた。

その他、恒例となったピンゴ大会やミスター・ミスコンテスト、軽音ライブ、屋台出店等、学生たちが様々な趣向を凝らして来場者を楽しませた。一般公開終了後の後夜祭では、学科対抗のゲーム大会を開催するなど、学年を超えて交流を深め、潮風祭開催を通して、以前よりもより一層団結を深めた小田原キャンパスの学生たち。後夜祭の最後には、実行委員長の関根紗里さんが、「みんなの力があつたからこそやり遂げられた。ここにいるみんなに感謝したい」と述べ、第五回潮風祭は幕を閉じた。開催に至るまで、実行

委員長を中心として懸命努力してきた学生たちの姿は、今年のテーマどおり「君色」に輝いていた。(学務課 磯崎真弓)

地域貢献の秋

小田原キャンパスでは、「社会に開かれた大学」を目指し、地域社会の役に立つ大学であることを具現化するため、地域の団体から要請があれば、いろいろなイベントの運営に積極的な協力を行っている。

この秋も、商工会議所青年部が主催する「小田原・箱根産業まつり」、「日本青年会議所全国大会小田原・箱根大会」、小田原市教育委員会が主催する「城下町おだわらツデーマーチ」などに学生がボランティアとして参加した。その中のひとつ、「小田原・箱根産業まつり」に参加した時の模様を紹介する。

九月二日(土)・三日(日)に小田原城址公園で開催され、今年から小田原市内の三大学が合同でブースを出店した。本学は、理学療法学科の学生が主体となり、「足型測定」を行い、足底圧を目で見ることで足の状態を把握できると大変な賑わいだった。



足型測定で賑わった本学ブース

他の大学もそれぞれの特徴を生かしたパフォーマンスを繰り広げ、人気のブース展開ができた。二日間の活動を通して、三大学の学生や教職員が親しく交流でき、今後の大学間交流に有益なイベント

であった。小田原キャンパスでは、地域貢献と学生の人間形成の一助になればとボランティア活動を奨励している。毎年、潮風祭において自分たちが取り組んできたボランティア活動をポスターで発表してもらい、地域交流委員会が、その活動の地域貢献度、継続性、広がり、他の学生の模範となるか等の視点から審査を行い、潮風祭の会場で表彰を行っている。

ボランティア活動等表彰式



ポスターの前でポーズをとる受賞者

今年度は九グループから活動発表があり、審査の結果、四グループが表彰されることになった。地域交流委員会では、この表彰結果を学部に公表することにより、他の学生に広く知らしめるとともに、多くの学生がボランティア活動を始めるきっかけになればと期待している。

- ・おだわら二十一世紀少年ボランティア
- ・介護老人保健施設水之尾納涼祭ボランティア
- ・児童養護施設鎌倉児童ホームボランティア
- ・重症心身障害児施設伊豆医療福祉センターボランティア

(総務課 高久晃)

カルチャー・シヨック

福岡看護学部も開学して早一年半。一年生も加わり、若さいっぱい総勢二百名が、我が天神キャンパスを賑わせています。学内のあちこちで二年生は「先輩!」と呼ばれ、敬語で話しかけられてグツと貫禄がついてきたように感じられます。

本学は国際大学であり、そんな彼らも次年度は海外研修が予定されています。韓国・中国からハワイ・オーストラリアまで、7ヶ国もの国に送り出す研修プログラムがある中で、先進国の医療・看護を学びたい者、発展途上国の現状を見て将来自分の力を役立てたいと考えている者など、希望する国は彼らの持つ夢によって様々です。

今年、オープン・キャンパスにやって来た高校生の一人は、「インターネットでオーストラリア研修のある看護学部を調べたけれどこしかなかった。来年ここに入学しよう勉強頑張る」と言っていました。

そのような事から来年の事前調査も兼ね、今年八月、大川リハビリテーション学部・十一日間の韓国研修の引率に加えていただきました。学生四十八名、引率教職員四名とかなり大所帯での研修でしたが、コニヤン(建陽)、インジェ(仁濟)両大学の先生方と学生の方々、この人数の多さにひるむこともなく、東鶴寺などの観光にもとことんお付き合いくださり、受け入れ態勢は万全の感がありました。

先日、ヨン様ことペ・ヨンジュンさん

が、何かの宣伝のキャッチフレーズで「人をもてなす心が受け継がれている国、韓国」とテレビで言っているのを耳にしましたが、あれは本当だと納得しました。又、あのように手厚いおもてなしを受けたのは、韓国の方の気質もさることながら、大川リハ学部での韓国学生の研修時に、先生方や国際交流室長、学生たちの深い関わりがあったことも一因にあることがうかがえました。

コニヤン大学での講義は、「韓国の医療の現状」、「作業療法・理学療法の現状と発展方向」など、先進十一カ国と比較しながらの内容で、国際看護論担当の私も、大変興味深く受講させていただきました。講義の通訳は日本語学科の学生が行いましたが、一度も日本へ来たことがないにも関わらず、コリアン・アクセントは皆無。私たちと同じように自然な日本語が話せるのです。これには皆様に驚いていました。自国内だけで一体どう教育すればあのようになるのでしょうか? 彼らは、大学で学んでいる事を確実に身につけているものと

「人をもてなす心が受け継がれている国、韓国」とテレビで言っているのを耳にしましたが、あれは本当だと納得しました。又、あのように手厚いおもてなしを受けたのは、韓国の方の気質もさることながら、大川リハ学部での韓国学生の研修時に、先生方や国際交流室長、学生たちの深い関わりがあったことも一因にあることがうかがえました。コニヤン大学での講義は、「韓国の医療の現状」、「作業療法・理学療法の現状と発展方向」など、先進十一カ国と比較しながらの内容で、国際看護論担当の私も、大変興味深く受講させていただきました。講義の通訳は日本語学科の学生が行いましたが、一度も日本へ来たことがないにも関わらず、コリアン・アクセントは皆無。私たちと同じように自然な日本語が話せるのです。これには皆様に驚いていました。自国内だけで一体どう教育すればあのようになるのでしょうか? 彼らは、大学で学んでいる事を確実に身につけているものと

「人をもてなす心が受け継がれている国、韓国」とテレビで言っているのを耳にしましたが、あれは本当だと納得しました。又、あのように手厚いおもてなしを受けたのは、韓国の方の気質もさることながら、大川リハ学部での韓国学生の研修時に、先生方や国際交流室長、学生たちの深い関わりがあったことも一因にあることがうかがえました。



日本語学科の学生が講義の通訳してくれたコニヤン大学

思われます。

研修三日目、コニヤン大学付属病院見学会を行いました。作業療法科の学生十名程にコニヤン作業療法科二年生が一人同伴して、指導者が説明する韓国語を英語で通訳し、それを私が日本語で彼らに伝えていました。少し時間がかかった時に一人の学生が「同じ二年間大学に通って俺たちはなんでもできる・・・」とポツリと呟きました。そばにいた他の学生たちも「うん・・・そうやね・・・」とうつぶさ加減で答えていました。今まで日本の中に居てこれだけ良しとしてきた自分に、これでいいのかと気付いた価値ある瞬間であったように思われます。彼らの頭に響く「ガン!」というシヨックの音が聞こえるような気がしました。

インジェ大学では、初日に理学療法学科教授二人による「動作分析概論」、「座位とその研究について」の講義と実演がありました。どちらの教授もロックスンガーが使うようなヘッドマイクをつけており、講義とヘッドマイクの意外な組み合わせに、こんな使い方があったのかと感心しながら受講させていたのだと次です。韓国で肉や野菜をハサミでバチバチ切っていくのを初めて見た時、一瞬唖然とし、まさにカルチャー・シヨックを受けた記憶があるのですが、



ヘッドマイクで講義に驚いたインジェ大学

どうしてあんな便利なハサミの使い方を思いつかなかつたのか今になると不思議です。韓国の方々の縛りの無い発想の仕方は、やはり大きな大陸の中にある国だからでしょうか? 又、韓国には、男性は二年間の兵役に服す徴兵制度があるとの事で、インジェ大学では今回の研修に關わってくれた男子学生の多くが兵役から戻ったばかりの方々でした。徴兵制度の善し悪しは別にして、二年間厳しいであろう生活をしてきた二十二・三歳の彼らに、軟弱さは微塵も感じられませんでした。学生交流会でステージに男子学生が一列に並ぶと、不思議にその雰囲気の違いで兵役に行った人、行ってない人が一目瞭然と見てとれるのです。

彼らは、送別の夕食会ではそのレストランの職員であるかのように私たち一行の食べ物や飲み物に気を配ってくれ、最後はリハ学部の学生たちと互いに言葉も通じない状況で盛大に盛り上がりつつありました。言葉無しに、何故あのような現象が起こり得るのか未だに理解に苦しみます。リハ学部の学生に「来年、もしも今世話になった学生さんたちが研修に来たら、あなたたちが面倒みてくれる?」と聞くと、「俺たちが最後までちゃんと面倒みるけん、大丈夫です」との答えが返ってきました。韓国研修中、日がたつにつれ学生達の頼もしさが増してきたように思われましたが、やはり海外研修で他国の文化や同世代の若者とふれ合う意義は大きい事を実感しました。

(福岡リハ学部 講師 永井あけみ)

大学祭「月華祭」特集



6回目を迎えた月華祭。市民の方も参加してためになるイベントを企画が開催された

女優・田中好子さんをゲストに 絵本の読み聞かせを開催

好天に恵まれた平成二二年一〇月九日(土)、一〇日(日)の二日間、福岡リハビリテーション学部の「月華祭(げっかさい)」を開催した。

六回目なる今年のテーマは「彩(いろどり) color」。そのテーマにふさわしく、当日は趣向を凝らした様々なイベントがキャンパス内のあちこちで行われた。

特に、初日九日(土)は、一三時からと二四時三〇分からの二回、毎年恒例の「絵本の小道」のスペシャルイベント(テーマ:忘れ物をとりにきませんか)として女優・田中好子さんをゲストに迎えて絵本の読み聞かせを開催した。

「ぜひ田中好子さんに絵本を読んでもらいたい。みんなに聞いてもらいたい」と、主催した手話サークルの学生たちの強い要望に田中さんが応えた形となり、今回の読み聞かせが実現した。開催当日、千冊を超える絵本が展示された会場には、2回合わせて五〇〇人以上の親子連れが来場し、思い思いに気に入った絵本を手にとって眺めていた。

「声の出し方、間の取り方などとても参考になった」お子さんが大きくなられたという方からは、「子どもが幼かったころを思い出した。本棚に眠っている絵本を読んでみようと思った」など多くの感想が述べられた。

パラリンピック水泳金メダリスト 河合純一氏講演会開催

二日目の10日(日)は、パラリンピック水泳金メダリストの河合純一氏の特別講演会を大川キャンパス内で開催した。

第一部は「夢への努力は今しかない!」若者に送る全盲の金メダリストからのメッセージ」というテーマによる講演会、第二部は河合氏の挑戦を描いた感動の実話「夢追いかけて」の映画上映に、当学部の学生や一般の方々の来場者約二二〇〇人の参加があった。

「自分で自分に限界を作らないで」など、河合氏の力強く説得力あるメッセージに、参加者はグッと引き寄せられたように聞き入っていた。



河合先生のお話を聞いて目が覚めました」と直接会場で感想を述べられるシーンもあった。

また、「夢追いかけて」の映画は、一五歳で全盲となった河合氏がパラリンピックへの出場と金メダリストの獲得、そして念願の教師となるまでの実話を映画化したもので、夢をあきらめず、実現してもなお一層の努力を惜しまない河合氏の姿を通して、夢と勇気と感動を観る人に与えたかのようだった。

田中好子さん絵本読み聞かせ 主催:国際医療福祉大学 後援:西日本新聞社・大川市教育委員会 (入試:広報部 望月秀樹)



ピッツバーグ大学「WISER」のPhampus 所長と一行代表



1915年に開学したメイヨー医学校



心肺蘇生法のシミュレーション教育(WISERにて)

マジル大学は、現在の米国、カナダの臨床教育を確立した有名なOsgood教授の学んだ大学でもある。その記念図書なども残されている。シミュレーションセンター (www.mcgill.ca/medsimcentre/)

トピックス

米国・カナダの医学部を視察して

医学教育研修センター長 天野隆弘

今年五月、理事長ご夫妻、大学学事顧問 佐藤禎一教授、建築関係者と米国、カナダの医学部、病院の視察に出かけた。世界最高の医療を提供していると米国で最も高い評価を得ているメイヨークリニック、肝臓移植数が世界一を誇る医

学教育の充実でも最近特に評価の高いピッツバーグ大学、カナダで最も伝統があり、カナダ最高の医学部と評価を得ているマジル大学医学部の三校を訪問した。いずれの施設にも共通しているのは、シミュレーション施設が充実し、それを積極的に医療教育に導入している点である。

が、メイヨークリニックの外来部門や、周辺の二病院で充実した教育を展開している。解剖学教室では、一ヶ月半の学生教育以外に、ご遺体を用いた高度な手術スキル向上のワークショップを、メイヨークリニック関係者は勿論、全米からの医師が参加して、ほぼ毎週開催している。



地元の高校生によるAED訓練(マジル大学のシミュレーションセンターにて)

三施設とも、病院での臨床教育は勿論、医学部入学時点からシミュレーションセンターでの実践教育を行い、研修教育、医師、看護師のチームワーク形成の教育高校生を含めた社会にも開かれた教育も展開している。

ほぼ通年にわたって、休みなくシミュレーションセンターでの教育を実施しており、その積極的な使用、教育は勿論、社会との結びつきまで考えた展開には目を見張られた。今回の視察プログラムは、早朝から夕方まで三〇分刻みの見学、プレゼン、ディスカッションなどが組み込まれていた。六〇分の昼食時間も、今話題の Medical Professionalism 教育を如何に展開するかの議論(メイヨークリニック)や、シミュレーション教育のプレゼン(WISER)を開きながら過ごす状態であった。

ハードではあったが、充実した約一週間の視察旅行であった。今後は見聞してきた内容を、いかに本大学で展開するかを考えていかなければならないと気持ち新たに次第である。

「キッズスクール」開催

夏休み中の八月八日(日)、大田原キャンパスで「キッズスクール」が開催された。これは小中学生に楽しみながら医療福祉分野の現場体験をしてみようというもので、初の試みである。

事前申込制のDJIコースは、参加者は三つのグループに分かれ、急性期、回復期、在宅期に分類された九つのプログラムを体験した。

- 急性期体験コーナー
  - ①「手術シミュレーターを体験しよう」内視鏡シミュレーターを使い模擬手術エコーを使って人体の断面を観察
  - ②「目の病気になるたらどう見えるの?」見えづらいことの不便さを実際に体験
  - ③「回復期体験コーナー」
- 回復期体験コーナー
  - ①「反射検査にチャレンジ」打鍵器を使ってからだの反射をみる
  - ②「指の器具を作ろう」リウマチの患者さんが使う器具を作る
  - ③「声の不思議を体験しよう」人工咽頭を体験

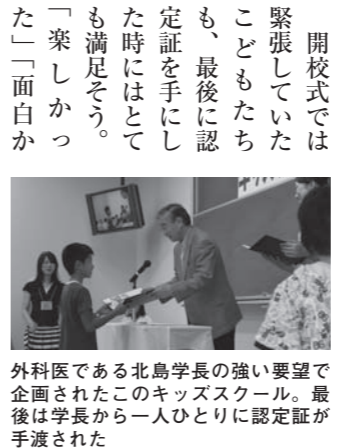


腹腔鏡下手術トレーニング用シミュレーターを使って胆嚢を摘出します。リアルな感触に最初は戸惑うこともあった



写真上…医療用にゴムハンマーで膝の下を叩き合う写真下…お菓子をもらった調剤体験はあとも楽しみ

- 在宅期体験コーナー
  - ①「薬剤師の仕事にチャレンジ」白衣を着替えて調剤を体験
  - ②「点滴のルートセットしてみよう」点滴で栄養をとる方法を体験
  - ③「食から介護を考える」トロミ食を作りながら食事を考える



外科学長から手渡された

開校式では緊張していたこともあったが、最後に認定証を手にした時にはとても満足そう。「楽しかった」「面白かった」という感想とともに「これからも」と医療に関心を持っていきたいという意欲的な感想もたくさん聞かれ、こどもたちやご両親だけでなく、本学教職員にとっても充実した一日となった。さらに進化させ、来年もぜひ実現させたい企画である。(東京事務所 広報室)

「関連職種連携」連携ワークショップ発表会を実施

一月六日、大田原キャンパスで「関連職種連携」連携ワークショップ発表会を実施した。

本学の特色あるカリキュラムである「関連職種連携教育」の第二ステージにあたる「連携ワーク」は、二年生(一部三年生)を中心に学科横断グループで「チーム医療」における「連携」について学ぶもので、今年も八〇グループ・八二一人の学生が参加した。

午前は班毎に教室に別れ、発表と質疑応答を行った。八グループの発表が終わると、班内の投票により班代表グループを選出した。

午後は代表の一〇グループがF101教室に集結して、代表グループ発表会へ



最優秀賞に選ばれたグループの席に歩み寄り北島学長



学長賞に輝いた97グループと藤田教務委員長

と移った。岩尾副学長による挨拶、藤田教務委員長による趣旨説明のあと、発表と質疑応答が行われた。昨年に比べて、発表者の落ち着き振りが印象的だった。人は変わり、今年の発表者は初めてでも、全体として確実に進化しているのだから、これが積み重なって伝統になるのだからと感じさせる頼もしさがあった。審査により、最優秀賞(一)、学長賞(二)、学生賞(一)、優秀賞(三)、敢闘賞(四)を決定し、北島学長から表彰状が手渡された。

最後に、来賓の松江一雄黒磯高等学校長の講評では、教育分野においても「学校・家庭・地域の連携」がキーワードになることが語られ、本学の取組みや「連携ワーク」に参加した学生に対する高い評価の言葉をいただいた。

終了後、ようやく緊張から解放され、代わる代わるステージで記念写真を撮る姿には、この実習で得た充実感があふれていた。(東京事務所 広報室)

「高校生作文コンテスト」表彰式



上…表彰式を終えた入賞者の皆さん 右…最優秀賞の結城和也さんと談笑する北島学長

本年六月、本学と毎日新聞社の主催による「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテストの募集を開始したところ、第一回目にも関わらず、九月の締切までに三三三通もの作品が寄せられた。

一次選考に残った三〇作品について様々な観点から最終審査を行い、最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作二点、入選五、学校賞六校を選出し、一〇月一六日、大田原キャンパスで表彰式を開催した。

表彰式の冒頭、黒岩祐治本学大学院教授が「共に生きる社会」をテーマに記念講演を行い、続いて、北島政樹学長より最優秀賞、優秀賞、佳作、学校賞が手渡された。

「医療と福祉、わたしの体験」をテーマに、その感想、感動を自分のことばで伝える多くの作品を輩出した今回のコンテスト。最後に、最優秀作品が朗読される会場は一気に静まり返り、改めて本学の建学の精神である「共に生きる社会」

の重要性を確認した。

- 入賞者一覧(敬称略)
  - 最優秀賞 「命をみつめて」 埼玉県武蔵越生高等学校二年 結城和也
  - 優秀賞 「憎しみも愛情へ」 東京都駒込高等学校一年 段野美桜
  - 「あなたと生きる」 岩手県立釜石高等学校三年 吉田亜耶香
  - 佳作 「共に繋がり共に生きる」 愛知県立豊田西高等学校二年 副島和樹
  - 「福祉」の答え 山形県立天童高等学校三年 中村円香
  - 入選 「わたしがドイツで体験し、考えた理想の医療と福祉について」 東京都桜葉高等学校一年 岩間優
  - 「病気がくれた唯一の幸せ」 山梨県山梨英和高等学校一年 梶原由有
  - 「医療スタッフの思い」 群馬県立桐生高等学校三年 船越萌香
  - 「私の目指す看護師像」 岩手県立岩手高等学校一年 野吾あかね
  - 「16歳の私と17歳の私が見た世界」 茨城県立日立北高等学校二年 矢吹友香
  - 学校賞
    - ・青森県立柏木農業高等学校
    - ・茨城県立太田第一高等学校
    - ・栃木県立小山城南高等学校
    - ・群馬県立伊勢崎興陽高等学校
    - ・長野県松本蟻ヶ崎高等学校
    - ・熊本県立阿蘇清峰高等学校 (東京事務所 広報室)

秋野 雅

小田原保健医療学部 看護学科 教授



にふさわしく、とても思いやりがあり、やさしさにあふれていると思う。授業

は盛りだくさんだし、実習もきついがお互い思いやんな学生生活の中、友人が悩みを抱えれば相談のり、体調を崩せば互いに看病をしている。また学生たちは教員にも気を使い、こちらの拙い説明でも一生懸命に理解しようとしてくれる。

やさしさは、じんわりと温かく心に沁み透る。疲れているときや心が塞いでいるときには、やさしさは元気の基にもなる。

しかし、「行き過ぎた」やさしさになると問題である。つまり、傷つきやすいために過剰なほどに互いに気遣い、また傷つけあわないように深くお互いに関わらないということが、やさしさの基になっているのならば、それは人と関わることを避けているだけである。心理的には「ひきこもり」と同じである。

私の主張 第17回 最近の若者のやさしさについて思う

医療関係者の多くは、疾患や障害を抱えた人と関わる。疾患や障害は、その人に痛みや苦痛を与えるだけではなく、その人の生活や自尊心を損ない、あるいは人生に大きな影響を与える。その人と深く関わらなければ、疾患や障害の真の意味を理解することはできない。私たち医療者に求められているやさしさは、人と関わることでできるやさしさだと思ふ。



### 看護学科 実習前のレディネス作り 「円滑な実習に向けて」 Win・Win・Win!!

三学年後期に行われる看護学臨床実習は、小児、母性、成人、老年、精神看護学の領域で一六週にわたりに行われる。学生にとって臨床実習は、自分の学んだ看護の知識や技術をいかせる場であると同時に、対象者や臨床実習指導者とのかわりの中で、看護することの厳しさに直面し、大きなストレスと緊張を強いられる。



細岡主任と共に一次救命処置の演習



中村指導者と共に輸液ポンプの演習



森山指導者と共に吸引の演習

そこで、円滑な臨床実習に向けて、実習の主体である国際医療福祉大学の臨床実習指導者の協力を得て、八月一日と四日に演習を実施した。本演習のねらいは以下のとおりである。

- ①学生は、臨床実習指導者とかかわりをもつことで、看護技術の習得、緊張や不安を軽減する。
- ②臨床実習指導者は、学生とかかわりをもつことで、学生の特性が聞かれた。

演習には、一〇二名の学生と白井信子主任、根本洋子主任を始め、本学卒業生である細岡直美主任（三期生）、森山めぐみ（五期生）、根本清香（六期生）、中村敏（六期生）指導者の六名が参加した。

演習終了後のアンケートでは、「臨床指導者が身近な存在に感じられた」「事前に臨床指導者と会うことで緊張や不安が軽減した」が九割以上を占めた。また、「厳しいイメージがあったが、やさしく指導してくださってうれしく感じた、不安が和らいだ」「実際に臨床指導者の方に教えてもらうことよって、わかりやすいし、興味がわいてきて、実習がんばろうという気になった」などの意見が聞かれた。

今回の演習を通して、学生・臨床実習指導者・教員の関係をより深めることができ、円滑な臨床実習への手ごたえを感じることができた。今後も三者にとつて、Win・Win・Winになるように取り組んでいきたい。

（看護学科 講師 重久加代子）



上：根本指導者と共に人工呼吸器の演習  
下：白井主任と共に経管栄養の演習

### 看護学科 結ネットワーキング計画 第4報 第一回「絆会」を大田原市で開催

看護学科リクルート係は、卒業生向けのメールマガジン「結ネット」配信に加え、看護学科の卒業生、在校生、教員の親睦会として「絆会」を七月に大田原市で開催した。第一回「絆会」には、栃木県地区関連施設で活躍されている二期生から二期生の卒業生（参加者数一四名）、四年生（二七名）、福島学科長他教員（七名）の計三十八名が参加し親睦を図った。

実施後のアンケートでは、「絆会」に参加した感想を卒業生は、「大変良かった（四〇%）%」、四年生は「大変良かった（九三%）%」、まあまあ良かった（七%）%と回答し、「普段話せない先輩や後輩と話すことができてよかった（卒業生）」「先輩と交流を深めたい。働いてみたいという意欲が高まった（四年生）」など多くの感想を頂いた。結果より、先輩・後輩の交流が深まり、四年生は関連病院への就職の意欲を高めたことが伺える。そして、学内外を越えた先輩、後輩の交流は看護学科の伝統の源であると感じた。



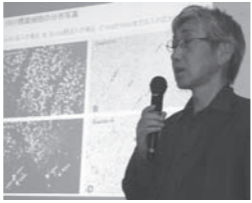
和気あいの絆会

多くの参加者から「第二回絆会」の参加希望の声を頂いた。今後よりクルート係は、絆づくりの場を提供していきたいと思っています。

（看護学科リクルート係 松本郁子）

### 「栃木県視能訓練士勉強会」開催

九月一日、医療法人財団青葉会佐野市民病院で、「平成二二年度第一回栃木県視能訓練士勉強会」が開催され、二九名の参加者があった。これまで勉強会会場が一部の地域に限られていたため、県南からの参加者が参加しにくい状況であったが、今回県南で開催したこともあり、佐野、足利から初めて参加者があった。



靱負先生のわかりやすい講演を聴くことができた

今回の勉強会では、国際医療福祉大学視能療法学科教授の靱負正雄先生による「視能訓練士のための視覚脳の基礎知識」というテーマで講演があった。靱負先生は、眼で捉えた視覚情報が脳に送られ、大きく二つの機能システムにより処理されるということ、また脳の様々な部位の障害により、視覚にどのような異常がでるのかを、図や写真を多用してわかりやすくご教授くださった。視能訓練士にとって、日ごろの臨床にも結びつく、大変興味ある内容であった。

（視能療法学科 三柴恵美子）

### 三年生病院実習報告会・医療経営戦略セミナー開催

医療経営管理学科主催「三年生病院実習報告会・医療経営戦略セミナー」が九月九日、大田原キャンパスで開かれた。第一部の「実習報告会」は、学生による実習病院間の意見交換と広い視野で病院を学ぶことを目的に毎年開催。夏季休暇中の四週間に病院実習で学んだ内容を二年生と実習先の病院スタッフに報告した。発表は実習病院ごとに一五分間の学会形式で行われ、活発な意見交換がなされた。病院スタッフは「学生らしい発想には感心する」と話していた。



学会形式で行われた実習報告会



鳥羽克子大学院教授による講演

第二部の医療経営戦略セミナーは今年で一回四回目。鳥羽克子大学院教授の講演「今、医療界に求められる診療情報管理士とは」診療情報管理士の過去、現在、未来には、県内や近県から病院スタッフ約四〇名が詰めかけた。診療情報管理士はこれまでの情報・記録管理だけではなく、経営分析にも活躍が期待されると紹介。医療界IT化の中で診療情報管理士による情報分析が病院にとって重要であるとして、診療情報管理士業務のあるべき姿と教育カリキュラムの充実を強調した。

（医療福祉・マネジメント学科助教 黒田史博）

### YUMIE氏特別講演会開催 「聴こえなくても私は負けない」

八月七日（土）、重度の聴覚障害がありながらもプロボディボーダーとして活躍したYUMIE氏が本学で講演し、一般市民、難聴児を抱えるご家族、学生など約二〇〇名が参加した。

生まれながらの難聴でありながら、一八歳でボディボーダーに出会い、二〇〇八年にはIBA世界ランク一位になるなどの成績を残した。こうした輝かしい活躍の裏には、幼少期のいじめや就職の苦労などの体験があり、それをいかに乗り越えてきたかを語った。

「辛い時こそゴールは近づいている」「大きな目標と夢を持つことで乗り越えられる」



生き生きとした表情で話すYUMIE氏

いくつもの壁を乗り越えてきた経験から感じていることだという。また、支えてくれている家族への感謝も忘れていない。この職業を目指したいという夢を持って本学に入学してきた学生には、忘れかけていたものを改めて考える機会になったのではないかとYUMIE氏のメッセージが参加者の心に響いた。

「Dream in your hand—あなた自身の夢はあなたの中にあるから、しっかりと握っていきましょう」

（言語聴覚学科 講師 小淵千絵）

### 元米国五輪代表候補 大橋グレースさんの講演開催

八月の本学医療福祉・マネジメント学科のオープンキャンパスプログラムの一環として、「模擬授業」コーナーにおいて、大橋グレースさんに、「障害者福祉——人の人生に関わる福祉職——」をテーマに記念講演を担っていただいた。講演では、大橋さんが難病である多発性硬化症と向き合い、現在本学関連施設を中心とする施設・在宅福祉サービスが無くては生きられないこと、人生に福祉サービスは深く関わること、障がいを持ち地域で生きていて感じていることを、当事者だから伝えられる分りやすい、説得力のある言葉で語っていただいた。現在二一歳の大橋さんが通信制大学、栃木県社会福祉士会研修会等で誠実に学び、車椅子バスケットに取り組み、恋愛に心躍らせる生き生きとした生き方が高校生・保護者そして学科学生たちに伝わった。



大橋さん（右）と熱心に聞き入る聴衆

私は、大橋さんの残された身体機能を全力で駆使し、一方で他者の心を配慮する優しさや健康さに、障がいと共存させてしまいたいようなやかな意志を思っていた。そして社会との関わりが社会的条件を改善する力になると改めて学んだ。

（医療福祉・マネジメント学科 准教授 浅香勉）

第16回 私のおすすめの本

福岡看護学部 看護学科 准教授 古川秀敏

「認知症のパーソンセンタードケア」  
トム・キットウッド著 高橋誠一訳  
筒井書房 二〇〇五年八月 二六二五円

認知症の本と聞きますと、一般に、その病態、発生頻度、検査方法、治療法など、認知症という疾患そのものに目が向きますが、著者が臨床心理学者という点もあって、最初に「人であることについて」記述されており、あくまでも関心は認知症の人、「その人らしさ」に向けられています。その点から他書との違いを感じさせます。私が最も興味深く感じた箇所は、認知症の方の心理的ニーズは「愛」であり、このニーズに向かつて重なり合う「なぐさめ」「結びつき」「共にいること」「携わること」「自分であること」という五つ二ーズに関する記述です。これは一般の人々にも重要なニーズであり、認知症を患っている方においても同様であることを示しています。

認知症の方との関わりについては、本学大学院教授の竹内孝仁先生も「共にあること」をケアの原則の一つとして提唱されておられます。キットウッドの主張は竹内先生のケアの在り方と同様、関わり合いの問題であることを示しているように思えます。認知症のケアがどうあるべきかを考える上で非常に興味深い本であると同時に、認知症に関してさらに興味をかきたてる本です。

附属病院

国際医療福祉大学病院

【第四八回栃木県公衆衛生学会】

九月八日(水) 栃木県総合文化センターにおいて、第四八回栃木県公衆衛生学会が開催された。

当院予防医学センターでは、岩尾總一郎副学長より直接論文指導等頂き、保健師七名が中心となり「人間ドックにおける特定保健指導の実践と評価」をテーマに参加、保健師を代表して橋本志穂さんが口演発表した。

当センターでは、人間ドック・定期健診等、年間約一万名の受診者の疾病予防に努めている。今回は、人間ドック(特定保健指導)後に特定保健指導を受けた有見者について、六カ月の指導プログラムを通し得られた結果を分析。「当院での特定保健指導の有用性・契約健保組合への結果還元と組合員の行動変容や健康管理に資すること」を目的に、研究を進めた。



蘇原院長(センター長)

今回のデータ解析によって、動機付け支援群の体重平均値・積極的支援群の体重・腹囲平均値ともに有意に減少がみられた。また、積極的支援群では電話・メール・手紙・FAXの支援法のうち最も効果的であったのは、面接+電話支援で体重平均二・九kg減、腹囲平均三・九cm減と有意な減少がみられた。

組合別比較では、単一健保の改善率が共済組合に比べ高い結果となった。県内の公衆衛生関係者が一堂に会した公衆衛生学会では、五九の演題が発表された。これにより、健康及び環境問題に対する認識をより一層深め、問題解決への意欲、関係者の資質向上と県民の公衆衛生、環境保全に対する関心を高めることができた。



研究指導者の岩尾副院長



プレゼンテーション協力者の佐藤専務・小林部長

本学病院予防医学センターでの特定保健指導は、本制度がスタートした当初より積極的に参入してきたが、まだ始まったばかりである。今後も、より効果的な指導を提供していくため、データを蓄積し、受診者様の疾病予防・健康増進に寄与していきたい。

(予防医学センター保健師 國井)

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

◇平成二二年度医療連携懇談会を開催

八月三日(火)、ホテルニューオータニにて三田病院・山王病院・山王メディカルセンター共催「平成二二年度医療連携懇談会」を開催した。港区医師会の先生方をはじめ紹介医療機関の方々約一五〇名にご参加いただき、盛会のうちに終了した。三田病院小川聡院長、山王メディカルセンター天野隆弘院長による講演会が行われた後、懇親会にて地域の先生方と親睦を深め、さらなる連携強化のご協力をお願いした。



◇院内研修会

【院内感染対策委員会研修会】

日時 六月二五日(金)

演題 「感染症診療について」

講師 静岡県立静岡がんセンター 感染症科部長 大曲典夫医師

日時 一〇月七日(木)

演題 「抗菌薬 変え時、止め時、どんな時？」

講師 聖マリア病院感染制御科 診療部長 本田順一医師

【第二回院内研修会】

日時 七月九日(金) 演題 「医学文献の動向と文献活用の実績」

講師 本校図書館副館長 今田敬子教授

◇中学生による職場体験

九月九日(木)・一〇日(金)、中央区立の中学校一年生二名が授業の一環として三田病院で看護体験を行った。病棟、手術室、リハビリセンターの見学や、介護体験、カンファレンスに参加した。

◇緩和ケア研修会を開催

本年四月、三田病院は東京都認定がん診療病院の再認定をいただいた。それに伴い、九月一日(土)・二日(日)の二日間にわたり、厚生労働省の「緩和ケア研修会開催指針」に基づき、がんに携わる医師、看護師を対象とした研修会を開催した。医師一四名、看護師五名が参加し、緩和ケアの知識、技能、態度を講義やロールプレイを通して習得した。参加者はすべての単位を修了し、修了証の交付を受け、日々の臨床に活かしてまいります。



(総務企画課 小倉由紀子)

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

院内真夏のコンサート開催

去る八月三十一日にCS委員会が主体となり、塩谷病院のエントランスホールにて、夏の院内コンサートを開催した。これは、当院の常勤医師として勤務いただいている内分秘代謝内科の家人蒼生男先生のご尽力で普段から交流のある演奏仲間を招いていただき、家人先生を含む一五名の演奏者で構成され、盛大に開催された。

演奏は、七楽曲の演奏をご披露いただき、聴衆は約百名程度。おもに外来患者様、入院患者様を中心に、中には院内を移動中の医師も少し足を止めてその音色に聞き入っているという状況だった。印象に残った光景は、坂本九の「見上げてごらん夜の星を」の演奏の際に、複数名の入院患者様が昔を懐かしんで、涙を流したり、目を閉じながらリズムをとっている姿があったこと。これを目の当たりにして、この演奏会を開催した意義があったと感じた。



演奏中の家人先生

そして最後の楽曲の終わると、大きな拍手が起こり、国際医療福祉大学塩谷病院となったが、大成功で幕を閉じることができた。終了後、患者様から、「田塩谷病院の承継問題で一時はどうなるか不安だったが、今日の演奏会を聴いて、病院に活気が戻ってきたことを肌で感じた」「地域のイベントとして継続してやっていただきたい」とのお言葉をいただき、塩谷病院に対する期待の大きさを実感し、身の引き締まる思いがした。

(CS委員会)



家人先生の呼びかけで実現したコンサートはすでに継続のリクエストが。

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

【第四七回熱海病院院内学術懇話会】

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、各部署間の情報交換や各職員の技術レベルの向上に役立てている。平成二二年度九月二四日(金)に第四七回目の院内学術懇話会が開催された。演題は左記の通りで、約一〇名の職員が参加により活発な意見交換が行なわれた。

臨床検討会(司会:板倉敬乃 小児科准教授) 六階病棟ウォーキングカンファレンス(心療・精神科) 津末里抄子、宮地伸吾、鈴木映二、耳下腺腫脹を認めなかったムンプス精巢炎の一例 辻本博瑛、山田大吾、板倉敬乃、伊藤泰雄、佐藤正昭、辻敦敏(小児科) 第四三回CPC(司会:羽鳥慎祐 外科准教授) 急速な経過をたどった糖尿病合併腎盂腎炎の一例 臨床:関厚佳、唐澤英偉(内科) 齊木巖(研修医) 病理:北村創(病理学)

【小田原保健医療学部大学説明会】 八月六日(金)と九月二日(土)、当院にて小田原保健医療学部の大学説明会が行われた。 将来の医療職を目指す小田原保健医療学部受験を志望する高校生と保護者を対象に、大学教職員から看護学科、理学療法学科、作業療法学科の紹介、入試概要の説明がなされた。また実習を行っている熱海病院の紹介と院内見学、当院に勤務する小田原保健医療学部卒業生からのアドバイスや個別面談を行った。 両日とも、参加された方々は熱心に耳を傾け、実習病院である熱海病院について理解を深めていった。 今後も小田原保健医療学部と密接に連携を取り、関心を持っている方々への情報提供に努めてまいります。

(総務課 飯島秀行)



小田原保健医療学部との連携で、病院内で大学説明会を実施

### 臨床医学研究センター(東京地区)

#### 山王病院 健康講座を開催

医療法人財団順和会 山王病院・山王メディカルセンターでは、月に一回「さんの健康講座」と題する無料の健康教室を開催している。開催規模が毎回五〇〜六〇人と比較的小規模である点を生かし、参加者の皆様のご質問にも個々に対応し、好評を博している。

九月三日に行われた「胃がんのひみつ」では、近藤慎太郎先生(山王メディカルセンター 内視鏡・治療室長、国際医療福祉大学講師)に、胃がんの原因や予防法、治療法をテーマにお話いただいた。普段なかなか知ることの少ない内視鏡的粘膜切除術(EMR)と内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)との違いや、最近話題となっている食道がんについても知識を深められたほか、参加者の皆さん



胃がんをテーマに語る近藤先生



質疑応答も活発だった菊池先生の乳がん講座

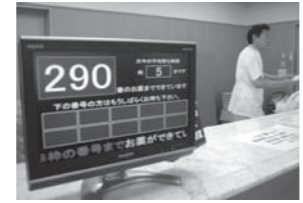
からは、「難しい話をやさしく話してくれたのがよかった」「内視鏡を使った実際の手術の様子を動画で見ることができ、興味深かった」などの声が聞かれた。

また、一〇月二日には、菊池潔先生(山王病院副院長・外科部長、国際医療福祉大学教授)による健康講座「早期発見!乳がんを知ろう」が開催された。シヤーカーセンを用いて実際の病態を見せのお話には、シヤーカーセン前まで集まって熱心に見入る参加者も。質疑応答は三十分ほど続き、個人的な症例についての質問も多数あった。東芝デジタルシステムズ(株)のご協力のもと、乳がん触診モデル(写真左)を会場に置き、乳房の「しこり」がどのようなものなのか、触って確かめるコーナーも好評だった。

この他にも、山王病院では毎月「コンサート」を開催している。アトリウムにあるピアノは、世界でも数少ない「ベーゼンドルファー・インペリアル」として、鍵盤の数が通常のピアノより多く、奥深く柔らかい音色で参加者を魅しませている。一月二五日には、読売新聞東京本社との共催で、ピアノ・管弦楽によるコンサートと、山王メディカルセンター・天野隆弘院長による人間ドックをテーマにした講演が行われた。(東京事務所・医療企画部 坂田洋子)

### 高木病院 外来待ち時間短縮への挑戦

「一人の患者様の投薬時間を一分短縮させると、五〇〇人で五〇〇分短縮できる」を合言葉に業務改善を行った。



待ち時間5分の院内薬局表示板

①調剤と検査に時間のかかる錠剤一包装をABC方式(1日分を朝・昼・夕に分ける)からAAA方式(朝・朝・朝)と同じものを連続して作る)に変更  
②薬は1日ずつ切り秤量監査していたのをやめ、投薬日ごとにまとめて重量監査

③薬剤師が薬袋に必要事項を記載して時間がかかっていたので、薬袋を変更して記載をなくす。併せて処方箋、薬袋の文字もゴシックにして見やすくした  
④薬剤助手を4名雇用してもらい、検査業務に携わる薬剤師を増やした。  
⑤患者様を待たせる原因の一つになっていた外来投薬窓口での時間短縮のため、服用方法、薬効など十分に理解されている患者様には新たな質疑があるかを確認し、ないなら速やかに薬を渡すことにした。

半年前、最大一二〇分あった待ち時間は平均二〇分以下に短縮された。現在、多くの患者様から「薬が早くもらえる」

### 福岡山王病院 「なるほど健康アカデミー第2期」がスタート

読売新聞西部本社と共催の「ビジネスマン・OLのための、なるほど健康アカデミー第2期」が一月一七日からスタートした。

会場は九州一のビジネス街・天神に近い読売新聞西部本社内の「よみうりプラザ」。ビジネスマン・OL対象の講座で、来年四月まで毎月一回の六回シリーズ、ノー残業デーとなる第三水曜日の午後七時から開催している。

一月の第一回目は、読売新聞西部本社編集委員がコーディネーターを務め、富永洋平・乳癌外科医長が「気になりませんか? 乳がんのこと」早期発見と治療」と題して講演した。

毎回、講演詳細が読売新聞のホームページと、福岡都市圏の四〇万世帯に配布される別刷りタブロイド版「読売かわら版」に掲載される。このシリーズは、今年二月から七月まで毎月一回のペースで土曜日に開催しているが、健康アカデミーは、サラリーマンが参加しやすい夕方に職場に近い会場での開催なので、健康講座とは異なった年齢層、現役世代にアピールする効果を生んでいる。(広報室 古賀 眺)

### 臨床医学研究センター(千葉地区) 化学療法研究所附属病院 看護部教育委員会主催

#### プリセプター研修

四月に入職した新人を指導している、プリセプター二名を対象とする研修を一〇月二日に行った。

プリセプターに任命されて半年が経過、指導上の悩み等が出てくる時期になる。そこでプリセプターの経験を肯定的に振り返り、互いに評価し、プリセプターシップへの理解と新人看護師のリアリティショックを最小限にとどめることを目的として研修を企画した。

まず、四名ずつ三つのグループに分かれ、各グループには教育委員がファシリテーターとして入り一緒にディスカッションに参加した。初めに各自の抱える問題点を挙げ、次にそれらの点に対しての解決策等を話し合い、最後に話し合われた内容と解決策、今後の方針、また各プリセプターの思いをまとめ、グループ代表者が発表をした。

どのグループにも共通していた課題は、新人看護師がネガティブな状況になった時、いかにしてポジティブな方向に転換していくかという点だったが、コミュニケーションがとれているかを検証したり、指導上での問題点を分析すること、どの部署もプリセプターがプリセプターと向き合い、真剣に指導を行っている様子が浮き彫りとなり、参加者からも手ごたえがあったというフィードバックが得られた。

### とはいえ新人看護師の育成は、各自が臨床業務を遂行しながら指導を行うことであり、看護師が看護師を育てるということは、決して容易なことではない。さらに課せられた業務を先輩の支えなく遂行できるようにするには、各個人の能力や適応性にも関わり、要する年月も様々である。従って、教育委員会では、プリセプターが一人で新人看護師の指導を背負うということではなく、プリセプターを中心に、各部署のスタッフ、さらには看護部全体で新人看護師を育てていこうというコンセプトで人材育成・キャリアアップに取り組んでいる。

新人看護師の指導に限らず、一般に成人学習においては、インストラクター・コンピテンシー、すなわちインストラクションの振り返りが大切であり、それがその後の指導に大きく影響するといわれており、そのような点からも今回の研修はとて有意義なものとなった。(手術室看護部教育委員会 榎本晶)



みんなの意見をまとめる



ディスカッションの様子

### 新宿げやき園 新宿げやき園は、平成二〇年六月一日、高齢者・障害者支援施設として、特別養護老人ホーム(個室ユニット型)定員一〇〇人、短期入所一〇人、認知症対応型通所(二〇人)、障害者入所施設(定員一〇人、短期入所二人)、障害者通所・生活介護(二〇人)の複合サービス提供を目指し、東京都新宿区百人町の都営団地の中に開設された。まさに都市型福祉施設、言いかえれば住み慣れた地域に建てられ、高齢者が多く住むこの地域にしっかりと貢献する役割が期待されている。当施設は、地域の地域貢献は、地域交流室がその任を負い、新宿区社会福祉協議会との密接な連携の下、各種ボランティアによる活動をご利用者ももちろん、近隣の住民の方々にも提供している。この地域のシニアセンターの存在として、ご家族、地域ボランティア、地域住民が、入所者の方々と日常的に交流する施設になるよう職員一同がんばっている。正に、共に生きる社会の実現とLive Life To The Fullestを目指している。(施設長 杉原素子)



入所者が演劇に出演

### 特別養護老人ホームおたわら風花苑

おたわら風花苑は平成一九年三月一日にユニットケア型の特別養護老人ホーム(個室ユニット型)入所定員五〇名、短期入所一〇名)として国際医療福祉大学構内に開設した。大田原市では初めてとなるユニット型特養であり、国際医療福祉大学グループの関連施設であることから、医療、福祉、教育との密接な連携体制が確保され、快適な環境の下でワンランク上の質の高いサービスに地域の期待が寄せられている。大学構内にある立地から実習施設としての役割も大きく、看護学科をはじめ関連職種連携実習など実習生の受け入れが年々増えており、平成二二年度には延べ六三七名が実習を行っている。

また施設内にボランティアセンターがあり、ボランティア学生や一般ボランティアの活動拠点として、おたわら風花苑は勿論のこと重症心身障害児施設なす療育園や身体障害者療護施設 那須療護園等の福祉施設での活動の拠点としての役割も担っている。(施設長 高野清志)



地域住民とのお食事会



明るく広い居室



共同生活室

活躍する卒業生

前回、本学の修了生・卒業生を紹介する特集を組んだところ、皆さんから好評をいただきました。彼らは在学生にとつては自分の将来を映す鏡のような存在。今後も引き続き紹介していきたいと思えます。

パキスタン・イスラム共和国の洪水被害で国際緊急援助隊医療チームに参加

放射線・情報科学科卒業 診療放射線技師 三好貴裕さん

七月下旬から降り続いた大雨により、パキスタン・イスラム共和国では死者一六〇〇人以上、被災者約一七二〇万人を出す大洪水に見舞われた。

九月一日、日本政府は国際緊急援助隊医療チームの派遣を決定し、昨年から登録していた私が医療調整員として参加す



到着した医療チーム。現地の人の姿も見える。右が三好さん。



撮影現場。日本での普段の環境とはずいぶん様子が違います。

た。三日午前八時、成田空港で団長以下、医師、看護師、薬剤師、医療調整員、業務調整員からなる二三名の医療チームの結団式を行い、直ちに出発した。建国以来の大洪水で、発生から一ヶ月以上が経過しても依然として冠水による被害の爪痕が残っていた。テロ対策として、我々の活動には常にパキスタン警察の護衛が同行した。

そんな中、五日よりムルタン近郊のサナワンにある診療所の一角で、日本から携行した総重量二・六トンに及ぶ資機材や医薬品を用いて診療活動が始まった。一〇日間の診療活動で、患者数は一八〇〇名を超え、四二名のX線撮影を行った。疾病状況は洪水被害に起因する内科系疾患が主であり、急性呼吸器感染症、下痢、発熱、皮膚疾患、眼疾患、マラリアなどが多く、X線撮影も胸部や腹部が多かった。発電所の復旧の遅れから停電が頻発したが、発電機で電力不足を補いながら撮影に臨んだ。

医療調整員の私は、X線撮影の他にも診療活動の補助的な役割を担った。医師や看護師の補助や、業務調整員と協力しての環境整備等である。これらは日常の業務では体験できず、今後、他職種との連携を行う上で、貴重な経験となった。

発展途上国での診療活動により、何もないところから工夫して何かを生み出す難しさと大切さを学んだ。反省点は多いが、多くを得ることができた。「災害は忘れた頃にや

ってくる」と言われるが、次回の派遣に備えて、日常業務の中でも創意工夫の大切さを考えていければと思う。

留学生紹介コーナー

今号より、本学で学ぶ留学生を紹介していきます。留学生の学習・生活に関するサポートは、大田原キャンパス国際交流センターにて行っています。場所は大田原キャンパスL棟一階で、留学生・日本人学生問わず気軽に交流ができるオープンスペースとなっています。これらの交流を通し「国際性を目指す大学」という本学基本理念の実現を目指しています。



留学生歓迎会の一コマ

私の座右の銘は「努力在于探索未知(学習とは未知なるものを探索するためのものである)」です。今回の留学でも、嚙下障害の科学的評価を中心に未知なるものの探索を進め、中国における言語障害の治療評価の発展に貢献したいと考えています。

王林(オウリン)さん(中国)

保健医療学専攻 福祉援助学分野

過去にも観光やJICAプロジェクトで来日し、今回が三回目の日本です。JICAプロジェクトからは日本滞在や学会参加の支援など多方面に渡りサポートを受けており非常に満足しています。中国では一〇年間義肢装具士として業務に携わってきました。「愛是一種奉獻、奉獻是一種幸福(愛とは一種の奉獻であり、奉獻とは一種の幸福である)」との座右の銘のもと、片麻痺者用の最新装具の開発を行い、中国帰国後は最新技術を障害者支援に応用したいと考えています。



王さん(左)と張さん(右)

学生投稿

The students' contributions

04

今回のテーマ

PART3 兄弟姉妹揃って国福大生 双子編

松橋さん姉妹

姉 松橋淳美さん

(医療福祉学部 放射線・情報科学科1年)

妹 松橋理美さん

(医療福祉学部 視能療法学科1年)



左が理美さん、右が淳美さん。双子で(究極の?)チーム医療をめざします。

同じ医療福祉の道ですが、学部が分かれたのは何か理由がありましたか?  
淳美「医療関係へという親の希望と、私たちが自身の人の役に立ちたいという理由でこの道を決めました。でも、興味を持った分野が違って、今は一緒に行動していないのがとても新鮮です」

理美「私は眼に障害を持って生まれてきました。眼の手術を受けたことがきっかけで、視能訓練士に興味を持つようになりました。また、双子ということで、身体も丈夫な方ではなく、たびたび病院のお世話になりました。こうした経験が、二人のなかで医療職につきたいという思いにつながったのだと思います」

二人をよく知る友達は、進路についてどんな反応でしたか?  
淳美「二人で医療系に進むと決めたことは、正直びっくりされました。いつまで一緒にいるの?とよく聞かれます。でも、二人だからこそ大変なときも頑張っていけるのではないかと応援されました」

理美「二人は仲がいいから協力して頑張れそうだなと、応援してくれました」  
今後この分野で、双子だからできそうなこと、やってみたいことは?  
淳美「今は専門的な知識がそれほど多くはないので、互いの分野について話し合い理解し、生かしていきたいと思えます。将来は、同じ病院に就職し、双子で活躍したいです。また、働いてからも今までのように切磋琢磨していきたいです」

理美「まだ1年生なので、卒業後のことはわかり

同じ医療福祉の道で、学部・学

小金丸さん姉妹

姉 小金丸奈央さん

(福岡看護学部 看護学科1年)

妹 小金丸実央さん

(福岡看護学部 看護学科1年)



左が奈央さん、右が実央さん。掛け合いのきいた原稿を送ってくれました。

ませんが、いつかチーム医療の一員として、同じ患者さんに携わりたいという話をしています」  
最後に、「両親やご家族に、こういうところを見てほしいということを。」  
淳美「親には金銭面で迷惑をかけているので、一番は、結果として表れる成績での頑張りを見せられたらいいと思います。また、親元を離れたら暮らしているだけで、日々の生活力をつけて、2人でいて大きく生きていく姿を見てほしいと思います。そして、電話したときに、充実した生活を送れていることを報告したいです」

理美「しっかり勉強に励み、国家試験に合格し、4年間で卒業できるように頑張りたいと思います。また、医療職には人を思いやる気持ちが必要だと感じます。この大学生活で様々な経験を、人として成長した姿を家族に見せたいなと思っています」

前回 新入生を絡めた兄弟姉妹特集を企画している時に思いがけず発見したのが今回のテーマ「双子」。今回はそのうちの2組を紹介しよう。

科も同じ。2人で決めたことですか?

奈央「私は中学2年の時に看護師になりたいって思いました。祖父が入院した病院の看護師さんに憧れたんですね。その看護師さんは優しいだけでなく、祖父や私たちが家族の不安を取り除いてくれて、しかも笑顔にしてくれました」

実央「私は受験直前まで別の道に行こうと思っていました!」

奈央「そうなんです! だから実央も看護師を目指すって聞いた時は、えっ?! あなたも?! っていう感じでした。やはり双子故の運命でしょうか?」

実央「たまたま進む道が同じだっただけで、よくある双子特有の、神秘的なものとは殆ど感じません(笑)」

2人をよく知る友達は、進路についてどんな反応でしたか?

奈央「私の場合は、あ、やっぱり、という反応でしたね」

実央「私も友人の反応は案外クールでしたよ。でも親がですね。何しろそれまで全く別の進路でしたから、どっつてそうなるの? よく考えたの? っていう状態です。最終的には、就職のことも考え、祖母の後押しもあってOKしてくれました」

今後この分野で、双子だからできそうなこと、やってみたいことは?

奈央「双子を意識することなく、個人個人としてどうなりたいたいのかな、どっつきかというこの方が

が興味がありますね」

実央「そうですね。変にお互いに意識することなく、教えあったり話し合ったりしながら、高め合えればいいかな」

最後に、「両親やご家族に、こういうところを見てほしいということ。」

実央「学費も安くはないし、今は親に援助してもらっている分、勉強を頑張って、行動で返していきたいです」

奈央「患者さま一人ひとりとじっくり向き合える仕事ができるように、今やるべきことに集中して頑張りたい。いつかの看護師さんのように、私も患者さんやそのご家族を笑顔にしたいんです。そのためには、まず自分の両親や家族を笑顔でいっぱいしたい」

実央「笑顔なかった?うちの家族」

奈央「あるね、笑顔。だから2人で、もっとうっばいにしてほしい」

実央「私たち双子ですからね」

奈央「そう、だから人の2倍笑顔にしたいと思

います」

学生投稿募集
IUHW84に向けて投稿を募集します。
テーマ「私のエコライフ」
環境についての提言、小さいけど実践していること、節約術・節約レシピなど、エコに関することなら何でもOKです。400字程度。写真かイラストを添付。
締切り: 1/7(金)
採用された方には2,000円の図書カードを進呈
提出先: 国際医療福祉大学 事務局総務課(内1114)
〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1
Tel: 0287-24-3000 Fax: 0287-24-3100
E-mail: soumu@iuhw.ac.jp



# 「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、スカパー!の774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

## 国際医療福祉大学アワー

### 特集! 大学祭

大田原キャンパスで開催された「風花祭」を特集。今年のテーマは『Infinity —我らの思い、無限の力—』。イベントや室内展示、模擬店やステージなどを紹介します。また、今年初めて開催された「共に生きる社会」めざして



レポーターの定本有加さんのご案内

高校生作文コンテスト(主催:国際医療福祉大学・毎日新聞社、後援:文部科学省)の表彰式もお伝えします。

この番組はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.iuhw.ac.jp/movie.html>

## 国際医療福祉大学大学院乃木坂スクール

### リハビリにおけるリスクとその対策

高齢者、心疾患、呼吸器疾患を始め、ICUおよびNICUなどの急性期、回復期、老人保健施設や在宅などの維持期リ



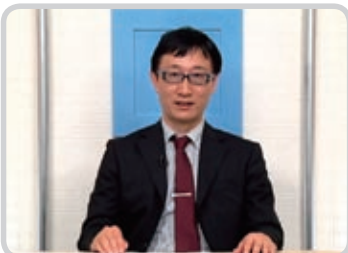
コーディネーター:丸山仁司氏(本学大学院教授)

ハビリのリスク管理は、それぞれ観察するポイント、対応なども大きく異なります。今回の講座はリハビリを行う上で、重要となるリスクとその対応について理解し、よりよい治療ができることを念頭に置きます。

## 社会福祉士受験講座2011

試験日:2011年1月30日

身体的・精神的に障害のある人や高齢者などの福祉に関



井坂光毅氏(ケアスタディ研究所代表・介護支援専門員)

する相談を受け、指導や助言、援助を行う社会福祉士は国家資格のひとつです。社会福祉士は社会的に注目を集める資格として、地域包括支援センターへの配置はもちろん、近年は学校や司法関係でも大きな役割を期待されています。

### ●医療福祉チャンネル774を見るには

スカパー!の774チャンネルでご視聴いただけます。

○視聴料・・・月額2,100円(他、スカパー!加入料2,940円(初回のみ)・スカパー!月額基本料410円がかかります)

法人契約・・・5,250円

○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

### ●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 (株)医療福祉総合研究所 お客さま係

Eメール info@iryofukushi.com

HP <http://www.iryofukushi.com>

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー 4階

## 介護福祉士受験講座2011(傾向と対策編)

筆記試験日:2011年1月30日

実技試験日:2011年3月6日

介護福祉士国家試験には、介護保険制度改革、高齢者医



実技試験の模範演技と詳しい解説

療制度改革など、様々な社会潮流の変化が反映されます。ベテラン講師が過去22回の出題傾向を徹底的に分析、試験によく出る項目に特化して解説します。また、実技試験の全ての過去問題を、詳しい解説と共に視聴できます。

774視聴者特典のおしらせ(個人契約に限りませ)

医療福祉eチャンネル  
<http://www.ch774.com>

①医療福祉eチャンネルのホームページ  
(<http://www.ch774.com>)からお申し込みください。

無料配信中!



②お客さま係(0120-870-774)まで、フリーダイヤルでお申し込みください。

## 広報誌 IUHW 83号

発行:学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会  
栃木県大田原市北金丸 2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕  
神奈川県小田原市城山 1-2-25 ☎0465-21-6500

〔福岡天神キャンパス〕  
福岡県福岡市中央区長浜 1-3-1 ☎092-739-4321

〔大川キャンパス〕  
福岡県大川市榎津 137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕広報室  
東京都港区南青山 1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン:iDept. 編集:東京事務所広報室

©国際医療福祉大学 2010 Printed in Japan 禁無断転載・複写



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

## お知らせ

IUHW Hot News

### 卓球部「全日本医歯薬学生卓球大会」で 男子団体戦優勝・女子団体戦準優勝

8/23・24、東京駒沢オリンピック公園屋内球技場で行われた「全日本医歯薬学生卓球大会」で本学卓球部が大活躍。参加5回目にして、男子団体戦優勝・女子団体戦準優勝に輝きました。前哨戦の「東日本医歯薬学生卓球大会」でも、男子団体戦優勝・女子団体戦優勝を収めており、好調を維持しての輝かしい結果となりました。

【男子団体戦優勝】小田原 PT3年 飯田健治、PT2年 栗田和幸、RT2年 鈴木友也、SHM2年 横川和真、SHM1年 室井慧一、OB 中野洸太

【女子団体戦準優勝】ST3年 佐々城葵、SHM2年 藤田菜津子、小田原 NS2年 安達菜摘、小田原 NS2年 横山美紗子、PT1年 桜庭雛子、SHM1年 中山美咲、OT1年 吉田朋未、PT1年 鈴木茉莉子(敬称略)

